



Espacenet Bibliographic data: JP 11043168 (A)

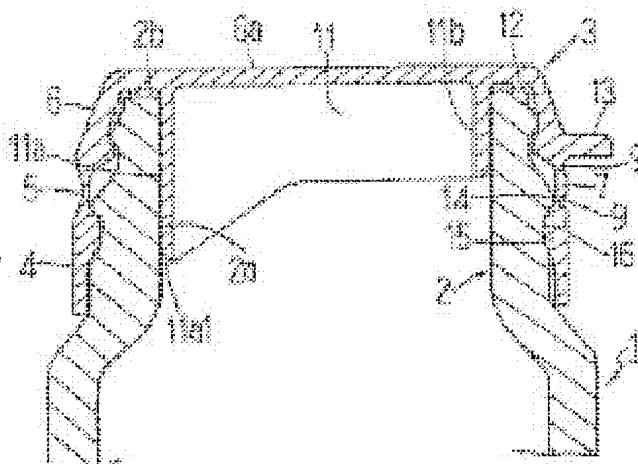
DRINK CONTAINER WITH LID

Publication date:	1999-02-16
Inventor(s):	MAKINO GYOKICHI ±
Applicant(s):	NAMIKOSU KK ±
Classification:	- International: B65D47/36; B65D49/12; (IPC1-7): B65D47/36; - European:
Application number:	JP19970198699 19970724
Priority number(s):	JP19970198699 19970724

Abstract of JP 11043168 (A)

PROBLEM TO BE SOLVED: To secure high sealability and hygiene and also enable easy opening/ closing by forming a cylindrical-face-like lid sealing face formed to be fitted into an inner diameter part of a container mouth at the time of closing a lid and a cylindrical-face-like container sealing face to be in tight contact therewith.

SOLUTION: A cylindrical sealing part 11 extending in an axial direction is integrally formed on a rear of a disk-like bottom 6a of a lid member 6. A lid sealing face 11a being an outer peripheral face of the sealing part 11 is formed in an outer diameter size which can be tightly fitted with a container sealing face 2a which is a cylindrical inner peripheral face of a container mouth 2. A fixing member 4 is brought into contact with the outside of the container mouth 2 and strongly pushed down, thereby fitting the lid member 6 into a container 1. This push-down allows an engaging protrusion 15 formed on an inner peripheral face of the fixing member 4 and an engaging recess 16 formed on an outer peripheral face of the mouth 2 to be fitted with each other. Since the lid sealing part 11a and the container sealing face 2a are airtightly attached at this time, leakage and deterioration due to contact with an atmosphere of contents can be prevented.



(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-43168

(43)公開日 平成11年(1999)2月16日

(51)Int.Cl.⁶
B 65 D 49/12
47/36

識別記号

F I
B 65 D 49/12
47/36

△

審査請求 未請求 請求項の数3 O.L (全4頁)

(21)出願番号 特願9-198699

(22)出願日 平成9年(1997)7月24日

(71)出願人 59701/247

株式会社ナミコス

大阪府大阪市中央区内平野町2-3-14ラ
イオンズビル大手前

(72)発明者 牧野 喬吉

大阪府大阪市中央区内平野町2-3-14ラ
イオンズビル大手前 株式会社ナミコス内

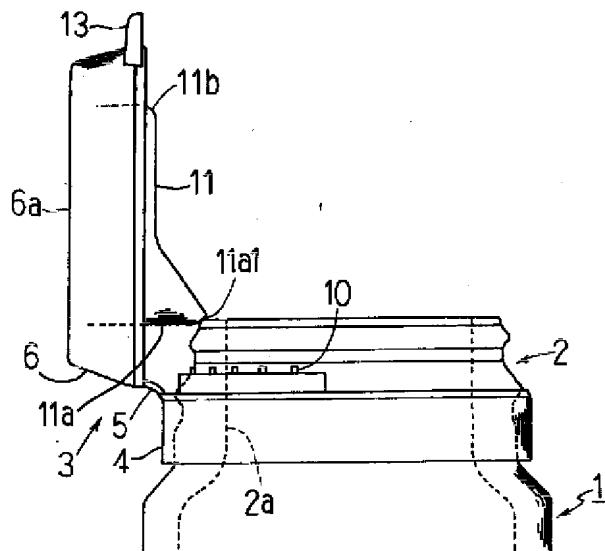
(74)代理人 弁理士 江原 省吾 (外3名)

(54)【発明の名称】 蓋付き飲料用容器

(57)【要約】

【課題】 高い密閉性を具備しつつ誰でも容易に開閉可能とする。

【解決手段】 容器口部2の外周部に嵌合固定される環状の固定部材4と、固定部材4にヒンジ5を介して取付けられた蓋部材6と、蓋部材6の底部に設けられた円筒面状の蓋シール面11aと、ヒンジ5との対向位置を含む円周方向の一定領域で固定部材4と蓋部材6とを一体に保持する引裂き片7と、引裂き片7とヒンジ5との間の領域で固定部材4と蓋部材6とを一体に保持し、蓋部材6の最初の開蓋時に当該動作によって分断される複数のブリッジ10とを具備する閉蓋具3を容器1の口部2に嵌着し、口部2の内周面に形成された円筒面状の容器シール面2aを蓋シール面11aと密着させる。蓋シール面11aのうち、ヒンジ近傍の先端部を軸方向に延在させ、その延在端部11a1を、蓋部材6が開蓋状態にある時に口部2の上縁部2bに接するようにする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 弹性材料からなる閉蓋具で口部を密閉された飲料用容器であって、閉蓋具が、容器口部の外周部に嵌合固定される環状の固定部材と、固定部材にヒンジを介して取付けられ、容器口部を開・閉蓋する蓋部材と、蓋部材の底部に、その閉蓋時に容器口部の内径部に嵌合するように設けられた円筒面状の蓋シール面と、ヒンジとの対向位置を含む円周方向の一定領域で固定部材と蓋部材とを一体に保持し、周方向に引裂くことによって両部材から分離される引裂き片と、引裂き片とヒンジとの間の領域で固定部材と蓋部材とを一体に保持し、蓋部材の最初の開蓋時に当該動作によって分断される複数のブリッジとを具備し、且つ、容器口部の内周面に、蓋部材の閉蓋時において前記蓋シール面と密着する円筒面状の容器シール面を設けた蓋付き飲料容器。

【請求項2】 蓋シール面のうち、ヒンジ近傍の先端部を他所よりも軸方向に延在させ、その延在端部を、蓋部材が開蓋状態にある時に容器口部の上縁部に接するようにした請求項1記載の蓋付き飲料用容器。

【請求項3】 蓋シール面の延在端部を凸球面状に形成した請求項2記載の蓋付き飲料用容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、開閉可能な蓋を持つ飲料用の容器に関する。

【0002】

【従来の技術】 飲料用の容器を密閉する蓋（閉蓋具）、特に繰り返し使用する蓋としては、瓶の口部にねじ込むようにした蓋が一般的である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、ねじ込み式の蓋では幼児等にはあくにくく、例えば幼児用飲料等の容器としては向きである。また、取り外した蓋の置き場所によっては、蓋が汚染され、再度閉蓋した際に飲料にも汚染が広がるおそれがある。また鮮度チェックを容易にするためにも、一度開封したのであれば、その痕跡を残して開封の有無を視覚的に容易に判別できるようにするのが望ましい。さらに、鮮度維持の観点からは密閉性の高いものが望まれるが、密閉性を高めればそれだけ蓋の開け閉めに手間がかかるようになるものが多い。

【0004】 そこで、本発明は、開封の有無を容易に判別でき、高い密閉性・衛生性を具備し、且つ誰でも容易に開閉することのできる蓋付き飲料用容器の提供を目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成すべく、本発明にかかる蓋付き飲料用容器は、弹性材料からなる閉蓋具で口部を密閉された飲料用容器であって、閉蓋具が、容器口部の外周部に嵌合固定される環状の固定部材

と、固定部材にヒンジを介して取付けられ、容器口部を開・閉蓋する蓋部材と、蓋部材の底部に、その閉蓋時に容器口部の内径部に嵌合するように設けられた円筒面状の蓋シール面と、ヒンジとの対向位置を含む円周方向の一定領域で固定部材と蓋部材とを一体に保持し、周方向に引裂くことによって両部材から分離される引裂き片と、引裂き片とヒンジとの間の領域で固定部材と蓋部材とを一体に保持し、蓋部材の最初の開蓋時に当該動作によって分断される複数のブリッジとを具備し、且つ、容器口部の内周面に、蓋部材の閉蓋時において前記蓋シール面と密着する円筒面状の容器シール面を設けたものである。

【0006】 この場合、蓋シール面のうち、ヒンジ近傍の先端部を他所よりも軸方向に延在させ、その延在端部を、蓋部材が開蓋状態にある時に容器口部の上縁部に接するようにするとよい。

【0007】 また、蓋シール面の延在端部は、凸球面状に形成するのが望ましい。

【0008】

【発明の実施の形態】 以下、本発明の実施形態を図1乃至図3に基いて説明する。

【0009】 図1に示すように、本発明にかかる蓋付き飲料用容器は、ガラス瓶等の剛性を有する容器（1）の口部（2）に閉蓋具（3）を嵌め込んで構成される。

【0010】 閉蓋具（3）は、弹性を有する材料（例えば樹脂）で一体成形されたもので、容器口部（2）に嵌合固定される円筒状の固定部材（4）と、固定部材（4）にヒンジ（5）を介して振動可能に取付けられた有底円筒状の蓋部材（6）とを主要構成要素とする。

【0011】 ヒンジ（5）は、円周方向の1箇所に円周方向に適当な幅を持たせて形成される。固定部材（4）と蓋部材（6）との間の境界部のうち、ヒンジ（5）との対向位置を含む円周方向の領域、具体的には当該対向位置を中心とする略半円周の領域には、開封前において固定部材（4）と蓋部材（6）とを一体に保持する引裂き片（7）が配置される。引裂き片（7）とその上下に位置する蓋部材（6）および固定部材（4）との間は、薄肉に形成された弱め線（9）を介して連続している。

【0012】 引裂き片（7）とヒンジ（5）との間の円周方向の2つの領域には、固定部材（4）と蓋部材（6）とを一体に連結保持するブリッジ（10）がそれぞれの領域に複数本ずつ設けられる（図1参照：但し、当該図面では一方の領域のブリッジのみを図示している）。このブリッジ（10）は、上方への引張力で容易に破断するような細長い円柱状をなし、円周方向に等間隔に設けられている。

【0013】 図2に示すように、蓋部材（6）のうち、円板状をなす底部（6a）の裏面には、軸方向に延びる円筒状のシール部（11）が一体成形される。このシール部（11）の外周面（11a：以下、蓋シール面という）は、

容器口部(2)の円筒状の内周面(2a:以下、容器シール面という)に緊密に嵌合できるような外径寸法に形成される。シール部(11)のうち、ヒンジ(5)の近傍部分は軸方向に延在させて他所よりも長くし、図3に示す開蓋状態において延在部分の蓋シール面(11a)の先端部(延在端部)(11a1)が容器口部(2)の上縁部(2b)に接するようとする。この延在部分の先端部(11a1)とこれ以外の蓋シール面(11a)の先端部とは滑らかな曲線を介して連続しており、且つこれらの先端部はその全周にわたって凸球面状に形成されている。蓋部材(6)の底部で且つ容器口部(2)の上縁部(2b)と対向する部分(シール部11の外径側)には、環状に突出する補助シール部(12)が設けられている。

【0014】なお、図中の(13)は蓋部材(6)に設けられたタブであり、(14)は引裂き片(7)の一端部に設けられた取手である。

【0015】以上の閉蓋具(3)は、樹脂材料を射出成形等して一体成形される。そして、飲料(水、果汁、牛乳等)を充填した容器(1)の口部(2)の外側に固定部材(4)をあてがい、これを強く押し下げて固定部材(4)を口部(2)の外周側に嵌入させることによって蓋部材(6)を容器(1)に嵌着する。押し下げに伴い、固定部材(4)は、図2に示すように、口部(2)の外周面に形成された環状の突出部(14)によって外径側に拡径し、その後、固定部材(4)の内周面に設けられた係合凸部(15)が口部(2)の外周面に設けられた係合凹部(16)に収まつところで内径側に弾性復帰し、容器口部(2)に嵌合固定される。この時、蓋シール面(11a)と容器シール面(2a)が気密に密着してシール機能を発揮するので、内容物(飲料)の漏れや外気との触れによる品質の劣化を確実に防止することができる。また、補助シール部(12)が容器口部(2)の上縁部(2b)に密着して同様のシール機能を発揮するので、密閉効果をさらに高めることができる。

【0016】この状態で、使用者が引裂き片(7)の取手(14)を掴んで引っ張ると、引裂き片(7)が弱め線(9)でひきちぎられて固定部材(4)および蓋部材(6)から分離する。さらに、タブ(13)を持って蓋部材(6)を引き上げると、その際の引張力でブリッジ(10)が破断し、蓋部材(6)がヒンジ(5)を中心として揺動して図3に示す開蓋状態になる。最初の開蓋時にはブリッジ(10)の破断音が生じるので、使用者は当該容器が未開封であったことを容易に認識することができる。もちろん、引裂き片(7)の有無によって未開封であるか否かを視覚的にも判別することができる。開蓋後は、ヒンジ(5)の弾性により蓋部材(6)が閉じようとするが、上述のようにシール部(11)の先端が容器口部(2)に接触して蓋部材(6)のそれ以上の閉じ動作を規制するため、蓋部材(6)は開蓋状態に保持される。蓋部材(6)は、ヒンジ(5)を介して固定部材

(4)に取付けられているので、固定部材(4)を一度容器口部(2)に嵌着すれば、以後、蓋部材(6)が容器(1)から分離することもなく、蓋部材(6)の汚染を防止することができる。

【0017】ところで、上記構成によればシール部(11)が蓋部材(6)の底部(6a)から突出しているため、閉蓋する際には、シール部(11)の先端、特にヒンジ(5)側の先端が容器口部(2)の内径側にうまく入り込まず、外径側に落ち込んでそれ以上閉じられなくなることも予想される。これに対し、本発明では、上述のようにシール部(11)の先端部(11a1)を容器口部(2)の上縁に接触する長さにしているので、その後、蓋部材(6)を閉じる際にも、当該先端部(11a1)が上縁部(2b)上を滑って内径側に案内されるため、シール部(11)を確実に容器シール面(2a)の内径側に嵌め込むことができる。一方、シール部(11)の全周をヒンジ(5)の近傍部分と等しい長さとすると、特にヒンジ(5)との対向位置にあるシール部(11b)が閉じ動作中において容器口部(2)の上縁部(2b)に接触干渉し、それ以上の閉じ動作に支障を来すおそれがあるが、本発明では、シール部(11)のうち、ヒンジ(5)の近傍部分のみを長くし、これ以外の部分(例えば11b)を短くしているので、そのような弊害も生じない。

【0018】また、蓋シール面(11a)の先端部(11a1)が凸球面状に形成されているので、容器口部(2)に接触したシール部(11)の先端部(11a1)は、蓋部材(6)の閉じ動作に伴って内径側にスムーズに移動することができ、より確実な開閉動作が確保できる。

【0019】

【発明の効果】以上のように、本発明によれば、蓋部材の蓋シール面と容器の容器シール面とを密着させる構造であるから、簡易な構造で高い密閉効果を確保することができる。また、ブリッジの破断音の有無や引裂き片の有無によって聴覚的、視覚的にも未開封であるか否かを確認することができ、内容物の改ざん防止に効果的である。蓋部材はヒンジを介して容器に取付けられているので、蓋部材を汚染個所に置くことによる蓋部材の汚染を防止することができる。

【0020】蓋シール面のうち、ヒンジ近傍の先端部を他所よりも軸方向に延在させ、その延在端部を、蓋部材が開蓋状態にある時に容器口部の上縁部に接するようにすれば、蓋部材を閉じる際にも、当該延在端部が上縁部上を滑って内径側に案内されるため、シール部を確実に容器シール面の内径側に嵌め込むことができ、誰でも容易に高い密閉効果を得ることができる。

【0021】蓋シール面の延在端部を凸球面状に形成すれば、容器口部に接触した蓋シール面の延在端部をよりスムーズに内径側に移動させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】閉蓋具の嵌着前における容器並びに閉蓋具の側

面図である。

【図2】閉蓋具の嵌着後における蓋付き飲料用容器の断面図である。

【図3】開蓋状態を示す側面図である。

【符号の説明】

- 1 容器
- 2 口部
- 2a 容器シール面
- 2b 上縁部
- 3 閉蓋具

4 固定部材

5 ヒンジ

6 蓋部材

6a 底部

7 引裂き片

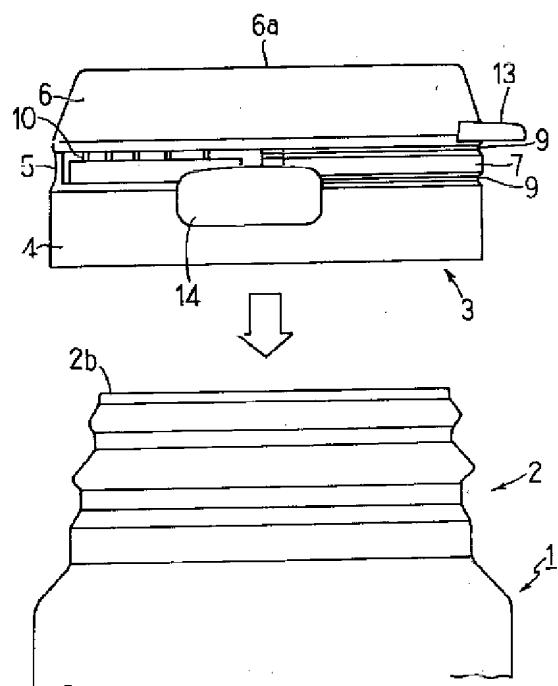
10 ブリッジ

11 シール部

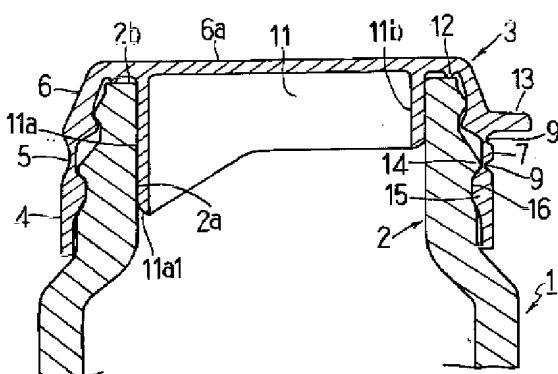
11a 蓋シール面

11a1 延在端部

【図1】



【図2】



【図3】

